

# 日中韓仏教絵画デジタルアーカイブの入手法と現状分析

● 福田 博 同

抄録：日本の国宝・重要文化財の58%は仏画である。2011年1月現在の日中韓の仏教絵画関連デジタルアーカイブの現状を調査分析する。情報の入手方法等は、この分野の最新レファレンスツールとしての役割を持たす。アクセシビリティを考えたWebサイトについても言及する。

Abstract: 58% of Japan's national treasures and important cultural properties (painting) are Buddhist paintings. To investigate and analyze the current state of Buddhist paintings related to digital archives in Japan, China and Korea as of September 2011. Accessible Web sites are also mentioned.

FUKUDA, Hiroatsu

## 1 はじめに

日本の国宝・重要文化財（絵画）1,948点中、仏画（垂迹画、道釈画を含む）は1,132点と58%を占める。<sup>1)</sup>本稿は仏画を中心に2011年1月現在のWeb情報を分析し、全文情報の入手法、個人的利用法、提供のためのWeb要件を模索する。まず、漢字変換、辞書類の利用法を提示する。日中韓を中心に最新の仏教美術情報を調査提示し、分析する。これらはレファレンスの役割を果たすよう記述する。なお、Web上での公開故に敬称は省略しない。Windows中心に操作法を述べる。また、Webサイトは移転する。国公立機関は「インターネット資料収集保存事業」<sup>2)</sup>で永久保存される。大学等の研究機関で「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」<sup>3)</sup>にあるサイトも同様であるが、それ以外は保証されないものが多い<sup>4)</sup>。

## 2 仏画情報入手の前提技術

仏画情報の入手には、言語や専門用語、PC操作方法の理解が必要である。

### 2.1 言語と辞書の操作方法

日本語以外に、中国語（繁体字）、朝鮮語、サンスクリット、英語等が必要で、完全理解には各言語に精通すべきだが、翻訳ソフトの下訳で情報は入手できる。

#### 2.1.1 Unicode 多言語の組み込み

WindowsのIMEパッド<sup>5)</sup>を開き、文字一覧からUnicode（基本多言語面）<sup>6)</sup>を選択、フォントをArial Unicode MS<sup>7)</sup>にする。中国語（台湾）を扱うには、「コントロールパネル」→（以下、次の手順を→で示す。）「地域と言語のオプション」→「言語→詳細」→「追加→入力言語」で「中国語（台湾）→OK」→「適用→OK」で表示される。同様に中国語（中国）や韓国語等を追加すれば、Windows上で多言語の入出力が可能である。

#### 2.1.2 Unicode 外漢字の扱い

Unicode 外漢字は島根県立大学の「e-漢字」<sup>8)</sup>や、「東京大学多国語処理研究会」の「GT書体」<sup>9)</sup>を利用する。また、エア・ネットの「今昔文字鏡」<sup>10)</sup>を購入する方法もある。

### 2.1.3 漢字変換・検索

MS-Word 上での旧漢字変換は東谷寺の「Q 漢字+for Windows 7」<sup>11)</sup>からプラグインを組み込む方法がある。Web 上での常用漢字検索では漢一氏の「漢字辞典ネット」<sup>12)</sup>、Unicode CJK 統合漢字検索では坂口丈幸氏の「Unicode CJK 統合漢字検索」<sup>13)</sup>や守岡知彦氏の「CHISE IDS 検索」<sup>14)</sup>等がある。その理解ツールとして山田崇仁氏の「CHISE IDS FIND で漢字検索」<sup>15)</sup>、「CHISE プロジェクト」については師茂樹氏 (2002)<sup>16)</sup>がある。繁体字、簡体字、ピンイン変換には「楽訳中国語変換」<sup>17)</sup>や、「どんとこい、中国語」<sup>18)</sup>等がある。これらの検索に「翻訳のためのインターネットリソース」<sup>19)</sup>がよく利用される。

### 2.1.4 漢字翻訳・辞典

漢字翻訳ツールには、「Google 翻訳」<sup>20)</sup>、「Infoseek マルチ翻訳」<sup>21)</sup>、「Excite 翻訳」<sup>22)</sup>、「Yahoo 翻訳」<sup>23)</sup>等がある。「Google 翻訳」は60カ国語を対象に、テキスト、Web サイト、PC 内ドキュメントの翻訳ができる。これらは誤訳等もあり<sup>24)</sup>複数辞書の利用で対処する。

漢字辞典類では、中華民国教育部の「教育部電子辞典」<sup>25)</sup>が良い。「國語辭典簡編本」、「國語小字典」、「重編國語辭典修訂本」、「異體字字典」等が含まれる。漢和辞典では千田大介氏仮公開の「KO 辞典」<sup>26)</sup>、あるいは、「康熙字典網上版」<sup>27)</sup>や、青蛙亭主人の「Web 支那漢」<sup>28)</sup>が良い。日本語字典「ウィクショナリー」<sup>29)</sup>から中文版「維基詞典」<sup>30)</sup>で典拠を確認、典拠から字源を確認する方法もある<sup>31)</sup>。

### 2.1.5 他の言語

漢字以外ではハングル、欧米諸語、サンスクリット、チベット語等が関連するが、Google 翻訳等を利用する。Google 翻訳にない悉曇—日本語は、英語から「Sanskrit Dictionary for Spoken Sanskrit」<sup>32)</sup>で変換の方法もある。全文電子影像辞典では「Cologne Digital Sanskrit Lexicon project」<sup>33)</sup>、国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」<sup>34)</sup>内の『弘法大師全集』巻七「悉曇部梵字悉曇字母並積義」<sup>35)</sup>に梵字の積義がある。また、龍光山正寶院の「形から引く梵字辞典」<sup>36)</sup>も良い。デバナガリは Arial Unicode MS にあるが、チベット文字は登録されておらず、星泉氏の「StarLab: Tibetan Characters」<sup>37)</sup>で説明を受け、「The Tibetan and Himalayan Library (THL)」の「Tibetan Machine Uni」<sup>38)</sup>をインストールする。また、「The Home for Digital Tibetan」<sup>39)</sup>の「Online Dictionary」<sup>40)</sup>や、「Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト eDic」<sup>41)</sup>等を利用する。

## 2.2 百科事典

専門家記述の百科事典には平凡社『世界大百科事典』の Web 版「ネットで百科@Home」<sup>42)</sup>や、朝日新聞社等の「Kotobank」<sup>43)</sup>、ENCYCLOPEDIA Britannica Online<sup>44)</sup>等がある。また、誰もが編集・無料利用できる「ウィキペディアファミリー」<sup>45)</sup>がある。ウィキペディアは正確性を保証しない。検証可能性を重視する<sup>46)</sup>。従って検証先を探すツールとして利用する。検証先がない場合、中文「維基百科」<sup>47)</sup>や英語版等で検証し典拠を確認する<sup>48)</sup>。誤記事は気付いた投稿者が直す仕組み。ある時点での誤記事は対処できず、履歴を見る<sup>49)</sup>。明治以前の百科事典では『古事類苑』<sup>50)</sup>を国文学研究資料館<sup>51)</sup>と国際日本文化研究センター<sup>52)</sup>が全文テキスト化中である。未テキスト化分は「近代デジタルライブラリー」内『古事類苑』<sup>53)</sup>(電子影像)を見る。中国の百科事典では「ICIBA」<sup>54)</sup>、「互動百科」<sup>55)</sup>等の仏教美術関連用語を検索する。

## 2.3 美術事典類(仏教辞典を含む)

### ① 「Digital Dictionary of Buddhism 電子佛教辞典」<sup>56)</sup>

世界的な仏教関連ポータルサイト。「キーワード検索」以外に索引類、事物類、外部情報源

等のリンクがある。外部情報源には「SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース」(後述)、「CBETA Buddhist Texts (Taiwan) (中華電子佛典協會經文檢索)」<sup>57)</sup>、「Korean Tripitaka」<sup>58)</sup>、「Korean Buddhism: Collected Works (Hanguk bulgyo jeonseo)」<sup>59)</sup>、「IRIZ Zen Texts (花園大学国際禅学研究所データベース)」<sup>60)</sup>、「Thesaurus Literaturae Buddhicae (Jens Braarvig)」<sup>61)</sup>等有用なサイトが多い。

- ② 望月信亨等編『仏教大辞典』(近代デジタルライブラリー内)<sup>62)</sup>  
典拠に基づく厳密かつ詳細な仏教大辞典の全文影像版。
- ③ JAANUS<sup>63)</sup>  
明治以前日本建築、庭園、絵画、彫刻、美術史の図像関連英文用語検索。
- ④ 筑波大学日本美術シソーラスデータベース絵画編 (JART-P)<sup>64)</sup>  
年表的、典拠付き詳細な日本絵画史事典。LODAC Museum<sup>65)</sup>の人名典拠。
- ⑤ 思文閣美術人名検索<sup>66)</sup>  
日本東洋古美術関連約8,300人の略伝。人名と略伝で検索する。
- ⑥ 東京文化財研究所「日本美術年表」<sup>67)</sup>  
典拠と詳細解題付き15-16世紀の美術年表。
- ⑦ 嶋田英誠氏編「WEB版中国絵画史辞典」<sup>68)</sup>  
宋元美術を主に430項目(画人約270名、画題、画材、画様など)の詳細な解説。
- ⑧ 荒井雄三氏「琴詩書画集」<sup>69)</sup>  
「中国絵画史ノート」は時代順に史料典拠付きの詳細な解説。
- ⑨ 狩野永納撰『本朝画史』(近代デジタルライブラリー内)<sup>70)</sup>  
典拠を示した日本絵画史の基本史料の一つ。

## 2.4 年号調査

年号計算には東谷寺の「年号計算」<sup>71)</sup>、中国では中央研究院計算中心(台湾)の「兩千年中西曆轉換」<sup>72)</sup>が詳細である。

## 3 仏教絵画情報の最新入手法

Google 検索、「検索デスク」<sup>73)</sup>等のメタ検索、Google フリー検索によるサイト内検索<sup>74)</sup>、Ajax<sup>75)</sup>、jQuery<sup>76)</sup>の利用等、検索方法も多様化した。専門プログラマでなくとも CSS と XHTML を扱える知識で複雑な検索も可能となった。例えば、葛西秋雄氏『jQueryによるWebサービス活用ワザ:実践サンプル集』では、Amazon 検索と Google ブックを連動し、CSS で利用者作成のデザインを組み込める<sup>77)</sup>。「Google AJAX Language API」<sup>78)</sup>で多言語翻訳窓の作成なども可能となった。国立国会図書館も2010年8月に「国立国会図書館サーチ」(後述)の Web API<sup>79)</sup>を公開した。これらを活用し情報を入手する。

### 3.1 データ収集・加工用 PC 設定方法

情報を収集し PC でデータ加工するには Excel が簡便である。VBA や Excel マクロでの Web ページ創出については福田(2004)<sup>80)</sup>で報告したが、Excel 2003からは XML 機能で Web サイトも作成できる。個人研究用 Excel ファイル作成例を示す。

#### 3.1.1 Excel ファイルの作成

以下のような構成で仏画情報、xlsx ファイルを作成する(詳細は注<sup>81)</sup>に記載)。

①リンク集シート(サイト ID、サイト名、解説等)、②作品シート(作品 ID、作者 ID、作品名等)、③作者シート(作者 ID、作者名、名号等)、④所蔵者シート(所蔵者 ID、作品 ID、所

蔵者名等)、⑤典拠書誌シート(書誌ID、作品ID、タイトル等)、⑥加工用シート(マクロやタグ付け加工用)

これらのシートを作成し、例えば、②の「作者ID」と③の「作者ID」を「ハイパーリンク: このドキュメント内」で関連付ける。Excelでデータベース管理すると、Webページ創出やWord文書等への転用等、修正が少なく効率的である。

### 3.1.2 Google サイト内検索

必要機関等のサイト内検索ページリストをPC側に用意すると対象を絞れる。サーバやカスタム CGI<sup>82)</sup>可能なプロバイダを利用できる環境であれば、フリーウェアの全文検索エンジンである Namazu<sup>83)</sup>や senna<sup>84)</sup>、Unicode 版 msearch<sup>85)</sup>などを利用する。環境がない場合、前述の「Google フリー検索」を設置する。

## 3.2 仏画関連全文情報の収集方法

検索エンジン、ネットプロジェクトの活用、個々の美術館・博物館、社寺の収蔵品画像と解説の検索、リンクリストの活用等がある。

### 3.2.1 検索エンジン等の利用法

中国では百度<sup>86)</sup>、他の国は Google や Yahoo! の各国版や各国の検索エンジンを利用すると事情が分かる。全文情報のキーワードは検索サイトの言語に合わせ「曼荼羅 圖」、「曼陀羅 図」、「만다라 그림」のような And 検索で良い。「曼荼羅 図 全文」のように「リポジトリ」、「電子テキスト」、「貴重書」等の全文検索用キーワードを追加する。「曼荼羅」、「観音」等の主なキーワードは注<sup>87)</sup>に示す。

機関を超えて全文情報等を検索するサービスには以下のようなものがある。

#### ① 国立国会図書館サーチ (開発版)<sup>88)</sup>

「PORTA」の後継。全文検索には「デジタルアーカイブ」のみを選択する。

#### ② PORTA<sup>89)</sup>

国内各機関公開の全文情報、学術論文・図書等書誌情報、レファレンス問答情報の統合検索サービス。国立国会図書館提供。

#### ③ 人間文化研究機構「統合検索システム」<sup>90)</sup>

人間文化研究機構を構成する「国立歴史民俗博物館」、「国文学研究資料館」、「国際日本文化研究センター」、「総合地球環境学研究所」、「国立民族学博物館」、「国立国語研究所」のデジタルアーカイブの統合検索サービス。

#### ④ 「想-IMAGINE Book Search」<sup>91)</sup>

NIIの連想情報学研究開発センターが提供する「文化遺産オンライン」(後述)、「近代デジタルライブラリー」、「東洋文庫図像資料」、「貴重書画像データベース」、「ウィキペディア」、「日本の古本屋」等の横断的連想検索サービス。

#### ⑤ e-國寶<sup>92)</sup>

国立文化財機構を構成する「東京国立博物館(以下、東博と略す)」、「京都国立博物館(以下、京博と略す)」、「奈良国立博物館(以下、奈良博と略す)」、「九州国立博物館」所蔵の国宝・重要文化財を一括検索するサービス。

#### ⑥ 「Weblio」<sup>93)</sup>

複数の辞書・用語集のメタサーチ。

#### ⑦ 「中国博物館在線」<sup>94)</sup>

中国国家文物局メンテナンスの中国美術館・博物館リンク集と記事検索。

### 3.2.2 ネット全文プロジェクト等

1971年の「Gutenberg Project」<sup>95)</sup>以来、全文テキストや電子影像を共有するプロジェクトが進行した。「American Memory」<sup>96)</sup>、「Wiki ファミリー」、「Internet Archives」<sup>97)</sup>、「Europeana」<sup>98)</sup>等全文公有化運動がある。上記では「Wiki ファミリー」、「Europeana」に仏教美術情報が多い。「維基文庫」<sup>99)</sup>には丁福保編『佛學大辭典』<sup>100)</sup>や、『四庫全書』<sup>101)</sup>（雑説之屬『畫禪室隨筆』<sup>102)</sup>等）全文テキスト化進行中である。また、「Europeana」で「buddhist paint」検索の場合、画像が154件。上記外の主な取り組みは以下のとおり（利用法を含め詳細は注に記す）。

- ① 「大正新脩大藏經テキストデータベース」<sup>103)</sup>  
大藏經テキストデータベース研究会（SAT）作成の日本最大の仏教經典 DB
- ② 東京大学史料編纂所データベース<sup>104)</sup>  
「古文書フルテキストデータベース」、「日本中世古文書フルテキストデータベース」、「古記録フルテキストデータベース」等歴史デジタルアーカイブの宝庫。
- ③ 東京大学東洋文化研究所「アジア古籍電子図書館」<sup>105)</sup>  
「漢籍善本全文影像資料庫」、「明代図像資料三才圖會」、「南アジア・サンスクリット語写本データベース」、「雙紅堂文庫全文影像資料庫」等
- ④ 「蓮實重康博士旧蔵美術史資料」<sup>106)</sup>
- ⑤ 東京文化財研究所「研究資料データベース」<sup>107)</sup>
- ⑥ 東北大学総合学術博物館「河口慧海コレクション」<sup>108)</sup>
- ⑦ 京都大学人文科学研究所東アジア人文情報学研究センター「東方學デジタル図書館」<sup>109)</sup>
- ⑧ 国際日本文化研究センター「日文研所蔵 稀本・資料データベース」<sup>110)</sup>  
「絵巻物データベース」、「在外日本美術データベース」等
- ⑨ 国文学研究資料館「電子資料館」<sup>111)</sup>  
「日本古典文学本文データベース」、「歴史人物画像データベース」、「新・奈良絵本画像データベース」、「館蔵和古書画像データベース」等
- ⑩ デジタルシルクロード<sup>112)</sup>  
「中国石窟データベース」、「東洋文庫所蔵貴重書デジタルアーカイブ」等
- ⑪ 禅文化研究所「研究・資料」<sup>113)</sup>  
『臨濟録』、『通玄録』、『隠元禪師年譜』、『通玄録』、『近世禅林僧宝伝』等 9 件
- ⑫ 古代史癡祭：列島編<sup>114)</sup>  
『日本書紀』、『続日本紀』、『上宮聖徳法王帝説』等
- ⑬ 「学術研究データベース・リポジトリ」<sup>115)</sup>  
全国の学術リポジトリを国立情報学研究所が横断検索システムとして提供。
- ⑭ 中央研究院（台湾）「漢籍電子文獻」<sup>116)</sup>  
『漢籍全文資料庫』、『佛經三論』、『人文資料庫師生版1.1』等2011年1月現在、460種の全文テキスト、約3億8千万字を収録。

### 3.2.3 国・美術館・博物館の全文データベース

国や美術館・博物館の仏教美術に関連する主な全文データベースを示す（紙面の関係上、利用方法を含め、詳細は注に記す）。

国指定文化財等データベース<sup>117)</sup> | 文化遺産オンライン<sup>118)</sup> | 東博（「情報アーカイブ」<sup>119)</sup>、「名品ギャラリー」<sup>120)</sup> | 京博（「収藏品データベース」<sup>121)</sup>、「名品紹介」<sup>122)</sup>） | 奈良博「アーカイブズ」<sup>123)</sup> | 国立歴史民俗博物館「所属資料データベース」<sup>124)</sup> | 東京藝術大学大学美術館「所属資料データ

ベース」<sup>125)</sup> | 國立臺灣大學文學院「佛學數位圖書館暨博物館」<sup>126)</sup> | MOA 美術館<sup>127)</sup> | 出光美術館<sup>128)</sup> | 根津美術館<sup>129)</sup> | 故宮博物院 (北京)<sup>130)</sup> | 故宮博物院旧サイト (北京)<sup>131)</sup> | 國立故宮博物院 (台北)<sup>132)</sup> | 韓国中央博物館<sup>133)</sup> | 韓国国立扶余博物館<sup>134)</sup> | Freer Garary of Art<sup>135)</sup> | Museum of Fine Arts Boston<sup>136)</sup> 等。

### 3.2.4 寺院のデータベース

Yahoo! Japan 登録寺院は847院。仏画3点以上詳細解説の総本山を記載した。

高野山霊宝館<sup>137)</sup> | 三井寺名宝の紹介<sup>138)</sup> | 知恩院の文化財<sup>139)</sup> | 西大寺絵画リスト<sup>140)</sup> |

### 3.2.5 美術ポータル等の仏教美術情報

「手拉手」内「國畫國學」<sup>141)</sup> | 「中華書画網」<sup>142)</sup> | 「超星數字圖書館」<sup>143)</sup> 等

### 3.2.6 リンクリスト

メンテナンスの面で政府機関や公共機関提供のリンク集を利用する方が良い。

文化遺産オンライン内「地方の文化財」(注118) | eMuseum (韓国)<sup>144)</sup> 等。

## 4 アクセシビリティを見据えて

以上、仏画関連の最新情報入手法、活用法を示した。次に日中韓の仏教美術関連7国立博物館トップページを比較する(日本:東京、京都、奈良の3国立博物館平均、中国:故宮博物院(北京新、台北)の平均、韓国:中央、扶余の平均)。

### ① 画像・解説全文テキスト

「e-國寶」(1,002件(うち絵画257件))、東博(名品詳細471件、古写真3,700件、画像情報検索)、京博(名品詳細36件、収蔵品5,884件、紀要)、奈良博(名品詳細(1,400件、うち絵画124件)、収蔵品1,296件、紀要) | 故宮博物院(北京)(5,205件(うち絵画825件)) | 故宮博物院(台北)(過去展覧詳細400件、典藏精選200件ほか) | 韓国国立中央博物館(3,031件) |

### ② トップページ

リンク数:最良:故宮博物院(新) 5 | 日本77、中国20、韓国44

行数:最良:故宮博物院(新) 5 | 日本196、中国39、韓国135

### ③ 収蔵品検索ページ

リンク数:最良:京博 16 | 日本44、中国52、韓国45

行数:最良:京博 30 | 日本130、中国150、韓国105

### ④ 多言語、児童版

多言語:最多:日・中・韓・英・仏・独・西・露・亜刺(故宮博物院台北)、

最少:母国語+英語

児童版: 7館中、未設置1館、ガイドダウンロード版のみ1館

視覚芸術を主とする機関といっても、人口の43%を占める老眼や弱視の人々<sup>145)</sup>を考慮したアクセシビリティサイトが望ましい。W3Cの「Web Content Accessibility Guidelines 1.0」(1999)(WAI)<sup>146)</sup>やJIS X8341-3(2004)<sup>147)</sup>に基づき配慮する<sup>148)</sup>。チェッカーとして、HTMLチェックに「W3C Validation Service」<sup>149)</sup>、「Another HTML-lint」<sup>150)</sup>、HAREL等がある。CSSチェックには、「W3C CSS Validation Service」<sup>151)</sup>を利用する。色覚バリアフリーチェック<sup>152)</sup>に「Image J」と「Vischeck J」<sup>153)</sup>、aDesigner<sup>154)</sup>等があり、サイト作成者には必須である。上記比較の重要ポイントは次のとおり。全文テキストが詳しく且つ多いこと、多言語、児童教育もあり、1ページを読む時間が少ないこと(リンク数・行数が少なく見やすいデザイン)。課題は内容が増加した時、見やすいサイトにするかの意識と実行である。

今回調査した116サイトはアクセシビリティを意識しない時代に作られたサイトが多いので Another HTML-lint で調査の結果、50点-90点13サイト（11%）、0-49点15サイト（13%）、マイナス点88サイト（76%）であった。リニューアル時に JIS X8341-3基準に合うよう修正する必要がある。

最後に、着々と全文テキスト化・オープン化が進む美術界を頼もしく思うと同時に、すべての人々がコミュニケーションできるよう、アクセシビリティへの配慮を忘れないことを望み、本稿を終える。

- 1) 文化庁「国指定文化財データベース」：<http://www.bunka.go.jp/bsys/> から作品を仏画、神道画、やまと絵、漢画、狩野派、漢画系諸派、琳派、浮世絵・風俗画系、洋風画、写生画系、日本画、洋画、中国絵画、朝鮮絵画、その他に分けて調査した。神道画・垂迹画、道釈画は仏画に含めた。URI は、以下すべて2011年1月2日～1月18日調査。
- 2) 「インターネット保存収集事業」：<http://warp.da.ndl.go.jp/search/> 国立国会図書館編。
- 3) 「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」：<http://www.nii.ac.jp/irp/list/> 国立情報学研究所編。学術機関の論文や研究成果の全文の蓄積・検索システム。
- 4) 執筆者はキャッシュを個人的に保存しておくといよい。
- 5) IME パッド： Microsoft の文字入力用ツール。手書き、総画数、部首等で文字検索・表示・貼付。
- 6) Unicode 基本多言語面 (BMP=Basic Multilingual Plane)：Unicode 1.0 (16ビットで表示、のち21ビット) と ISO/IEC (32ビットで表示) の規格競争の結果、ISO/IEC は Unicode を含んだ規格として、文字番号の上位から8ビットごとに群、面、区、点とし、Unicode の65,536文字を00群00面に割り当て、これを基本多言語面と呼ぶ。文字コードの基礎知識については慶應義塾大学千田大介教授の「脳瓦崗案」<http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/>の「文字コードの基礎知識」を参照。
- 7) Arial Unicode MS：Unicode 対応 JIS 外文字、デバナガリ文字等も表示。True Type フォント。
- 8) e-漢字：<http://ekANJI.u-shimane.ac.jp/> 島根県立大学の故勝村哲也名誉教授を中心とするグループによる、漢字フォント・検索システムの作成無料提供サービス。
- 9) 平成7年度日本学術振興会産学共同研究支援事業「人文系多国語テキスト・プロセッシング・システムの構築に関する研究」(代表：東京大学田村毅教授)(翌年、日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「マルチメディア通信システムにおける多国語処理の研究」プロジェクトとなり2000年に終了)。74,086字の TrueType 形式フォントと検索システム。更新提供は「東京大学多国語処理研究会」<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/GT/>
- 10) 今昔文字鏡：<http://www.mojikyo.co.jp/index.html> 1985年設立のエア・ネットが1997年に大修館書店『大漢和辞典』番号で発売。豊富な検索システムと JIS 外文字を扱えることで外字問題解決策として普及。1999年～2008年 True Type フォントの Web ページサーバーを公開。現在16万字の True Type フォント版、Unicode 対応版、毛筆草書版、毛筆隷書版、梵字版がある。
- 11) Q 漢字：<http://www.eastvalley.or.jp/top.shtml> 真言宗明香山観音院東谷寺作成。手順どおり組み込むと Word 上に「East Valley」が表示され変換できる。
- 12) 漢字辞典ネット：<http://www.kanjijiten.net/index.html> 漢一氏管理の Web サイト。漢字辞典、常用漢字、人名用漢字、部首、難読漢字等がある。
- 13) Unicode CJK 統合漢字検索：<http://rtk.web.infoseek.co.jp/cjk/> 坂口丈幸氏の Web サイト「三國演義」内にある。
- 14) CHISE IDS 検索：<http://chise.zinbun.kyoto-u.ac.jp/ids-find> 守岡京都大学教授提案の CHISE (CHar-

acter Information Service Environment) Ideographic Description Sequence。即ち、漢字構成要素を直接利用し、汎用文字符号に制約されない次世代文字処理環境の実現を目指すオープンソース型研究・開発プロジェクトの、漢字構造情報を検索できるシステム。

- 15) CHISE IDS FIND で漢字検索：[http://www.shuiren.org/chuden/toyoshi/syoseki/chise\\_ids.html](http://www.shuiren.org/chuden/toyoshi/syoseki/chise_ids.html) 山田崇仁氏 Web サイト「睡人亭」内にある。偏旁、囲みなどの漢字部品のパターンを組み合わせた検索方法である。
- 16) 師茂樹氏「文字コードとフォント：CHISE プロジェクト」『漢字文献情報処理研究』, No. 3, 2002, p.143-147. 公開 PDF：<http://www.jaet.gr.jp/archives/journal/jj03.pdf>
- 17) 楽訳中国語変換：[http://www.jcdic.com/chinese\\_convert/index.php](http://www.jcdic.com/chinese_convert/index.php) 楽訳株式会社の中国語 Web サービス：「辞書」、「会話」、「発音ペンイン」、「知恵袋」、「中国語変換」、「電子辞書」、「掲示板」があり、「中国語変換」は漢字、繁体字、簡体字のどれからでもペンインを加えて変換可。
- 18) どんとこい、中国語：<http://dokochina.com/> 株式会社ドントコイの中国語 Web サービス。
- 19) 翻訳のためのインターネットリソース：<http://www.kotoba.ne.jp/> Kotoba.net で運営。辞典・字典・事典類の簡解のディレクトリー検索。
- 20) Google 翻訳：<http://translate.google.co.jp/>
- 21) Infoseek マルチ翻訳(旧 Lycos 翻訳)：<http://translation.infoseek.co.jp/> 英、韓、中、仏、独、伊、西、葡の 8 カ国語。
- 22) Excite 翻訳：<http://www.excite.co.jp/world/> Infoseek マルチ翻訳同様 8 カ国語。
- 23) Yahoo 翻訳：<http://honyaku.yahoo.co.jp/> 英、中、韓国語。アドオンのインストールが便利。
- 24) 「事故沒有造成人員傷亡」の Excite 翻訳「事故はもたらす人員は死傷していません」と、Google 翻訳「事故は、死傷者が発生」の誤訳事件 (2010年 9 月) もある。
- 25) 教育部電子辞典：[http://www.edu.tw/e\\_dictionary.aspx](http://www.edu.tw/e_dictionary.aspx) 例えば、「重編國語辭典修訂本」では、字詞、注音、釋義等で探せる。「佛」を釋義で探すと「八百羅漢」から「百喻經」までの50項目が表示され、注音一式、漢語ペンイン、注音二式、資料典拠付き解説が表示される。
- 26) KO 辞典：<http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/zigen/> 文部科学省・学術フロンティア「超表象デジタル研究センター」の一部
- 27) 康熙字典網上演：<http://www.kangxizidian.com/> 康熙字典原図を PDF 化して、部首検索、全文検索を付したもの。拡大して利用する。
- 28) Web 支那漢：<http://www.seiwatei.net/chinakan/chinakan.cgi> 著作権の切れた田中慶太郎著『支那文を読む爲の漢字典』(文求堂, 1940) を電子影像化、検索用索引付き Web サービス。
- 29) ウィクショナリー：<http://ja.wiktionary.org/wiki/> ウィキファミリーの一つ。あらゆる言語の語句の意味・語源・用法・関連語などを記載、国語辞典、漢和辞典、英和辞典、類語辞典などを網羅した多言語多機能辞典を目指す。2011年 1 月 3 日現在、172言語以上、60,028項目。
- 30) 維基詞典：<http://zh.wiktionary.org/zh-hans/> ウィクショナリー中文。典拠と用例が役立つ。
- 31) 例えば「藝術」の「藝」を「ウィクショナリー」で調べる。典拠なし→中文「維基詞典」へ行く。【後漢書、張衡傳】、【康熙字典】等の用例典拠がある。【康熙字典】の「藝猶才也」を「康熙字典網上演」で確認。康熙字典番号1065で検索、【韻會】に「藝才能也」とあるのを確認する。
- 32) Sanskrit Dictionary for Spoken Sanskrit Klaus：<http://spokensanskrit.de/> Glashoff 氏の English-Sanskrit 変換サイト。
- 33) Cologne Digital Sanskrit Lexicon project：<http://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/> ケルン大学インド、タミール語研究所のデジタル辞典プロジェクト。



- 34) 近代デジタルライブラリー：<http://kindai.ndl.go.jp/> 国立国会図書館所蔵の著作権切れ公有資料（現在、明治～大正期）を全文電子影像化したサービス。2011年1月現在インターネット公開17万冊。「旧式ブラウザ対応」の場合「大サイズ画面」で読める。全文画像典拠としても活用できる。
- 35) 『悉曇部 梵字悉曇字母並釈義』：<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/819272/98> 原本：祖風宣揚会編『弘法大師全集』巻七，東京：吉川弘文館，1909-1911，p.98-103
- 36) 形から引く梵字辞典：<http://tobifudo.jp/> 天台宗の関東三十六不動霊場第二十四番札所「飛びお不動さま」公式サイト。「仏様の世界」は仏教図解事典。現在、424項目を収録。
- 37) StarLab : Tibetan Characters : [http://star.aacore.jp/wiki/StarLab:Tibetan\\_Characters#XP](http://star.aacore.jp/wiki/StarLab:Tibetan_Characters#XP) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所星泉准教授の「StarLab」にある。Windows、Mac OS、Linuxでのチベット語導入方法を指導。
- 38) Tibetan Machine Uni : <https://collab.itc.virginia.edu/access/wiki/site/26a34146-33a6-48ce-001e-f16ce7908a6a/tibetan%20machine%20uni.html> The Tibetan & Himalayan Library (THL) の Toolbox。チベット言語に関する変換ソフトウェアや文化情報を提供。
- 39) The Home for Digital Tibetan : <http://www.nitartha.org/home.html> ニューヨークの Nitartha International グループ作成のデジタルチベットプロジェクト。「Online Dictionary」(Tibetan English で英語と英文チベット語翻訳) や「Sambhota Tibetan Fonts」(有料チベット語フォントとシステム) 等。
- 40) Online Tibetan English Dictionary : [http://www.nitartha.org/dictionary\\_search04.html](http://www.nitartha.org/dictionary_search04.html)
- 41) Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書 eDic : <http://suzuki.ypu.jp/edic/> 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト (代表鈴木隆康) 作成。対象は『法華経』、『八千頌般若経』、『金光明経』、『ウダーナヴァルガ』、『正理一滴論註』、『宝性論』、『仏所行讚』等の全文テキストまたは一部。
- 42) ネットで百科@Home : <http://www.mypaedia.jp/netencyhome/> 日立ソリューションズの『平凡社世界大百科事典』や百科事典「マイペディア」、「デジタル月刊百科」の Net 版。3 分間試用可能。
- 43) kotobank : <http://kotobank.jp/> 朝日新聞社、講談社などの96辞書、66万語解説サイト。
- 44) ENCYCROPEdia Britannica Online : <http://www.britannica.com/> ブリタニカ百科事典。
- 45) ウィキペディアファミリー：<http://ja.wikipedia.org/wiki/> 1991年に開始されたウィキペディア（百科事典）を中心に、ウィクショナリー（多言語辞典）、ウィキブックス（教科書・解説書）、ウィキクォート（引用句集）、コモンズ（画像等のファイル）、ウィキソース（著作権フリー文書）、ウィキスピーシーズ（生物種のディレクトリー）、ウィキニュース、ウィキバーシティ（学習支援）など。Wikipedia は2011年1月5日現在記事数：288ヶ国語、英語版3,490,325、日本語版718,974等、総数17,301,345件。
- 46) Wikipedia の利点・欠点については「Wikipedia：よくある批判への回答」を参照。
- 47) 维基百科：<http://zh.wikipedia.org/zh-tw/Wikipedia:%E9%A6%96%E9%A1%B5>
- 48) 例えば、2011年1月9日時点で「ウィキペディア」の「仏教美術」は項目名のみだが、中文「维基百科」の「佛教藝術」では注釈3件、参考書2件、脚注90件等がある。さらに、英文「Wikipedia」の「Buddhist Art」で24の参照あり。ドイツ語版「WIKIPEDIA」の「Weblinks Commons」等も参照。
- 49) オープン・コンテンツ、コピーレフト運動で運営。編集者の「匿名性」が「信頼性」問題として非難がある。解決策として「査読と同等の公開記事を典拠とする検証可能性」、「管理人制」、「改変等記事履歴の保存」、「ウォッチリスト」、「査読依頼」等の方法を行っているが、特定時点は修正されない。例えば檜原真知子ほか（2008）「Wikipediaの評価」で過ちを指摘している（が、関与していない）。一方、2005年12月、Wikipedia と Britannica の科学記事が互角、との Nature 記事と、(<http://www.nature.com/nature/journal/v438/n7070/full/438900a.html>) と2006年3月24日の Britannica の反論論争もある。また、2010

年11月18日「大学の授業で Wikipedia の記事を充実させる取組み (米国)」(カレントアウェアネス記事 E1118 : <http://current.ndl.go.jp/e1118>) や「クイーンズランド州立図書館、Wikimedia Commons に写真 5 万件提供」記事 : [node17398](http://node17398)がある。

- 50) 神宮司序編『古事類苑』 [出版者不明], 1896-1914, (東京: 野村宗十郎, 1896-1914) : <http://webcat.nii.ac.jp/cgi-bin/shsproc?id=BA55667952> 1879年編纂開始。本文1,000巻。
- 51) HTML 版 : 古事類苑検索試験システム <http://base1.nijl.ac.jp/~kojiruuen/ruientop> 国文学研究資料館編、2006年6月更新、「天部」、「歳時部」、「地部」、「稱量部」。
- 52) 古事類苑全文データベース : <http://ys.nichibun.ac.jp/kojiruuen/> 2010年8月更新。約6,160ページ分の全文テキストデータに検索システムを付与して提供。検索は単語検索とインデックス。例えば大和を引くと、郡が表示され、典拠史料内簡解と原文 PDF が表示される。
- 53) 近代デジタルライブラリー内『古事類苑』 : <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/897564>
- 54) ICIBA : <http://hanyu.iciba.com/> Wiki ベースの中国事典サイト。「詞典」、「翻訳」、「句庫」、「漢語」、「会話」、「サロン」等があり、「漢語」には「漢語詞典」、「成語詞典」、「古今詩詞」等がある。
- 55) 互動百科 : <http://www.hudong.com/> Wiki ベースの中国最大規模の百科事典。「藝術」では、全部、彫塑、絵画、建築、工芸美術、書法、篆刻、芸術家、藝術理論等に分類。号の「牧谿」で探すと「互動知識」の「法常」や、「互動百科」の「法常」の解説(「基本資料」、「個人概述」、「職業生涯」、「個人榮譽」、「個人影響」、「人物評価」)が出る。関連主題や画像等にリンクされている。
- 56) Edited by A. Charles Muller “*Digital Dictionary of Buddhism* = 電子佛教辭典” : <http://www.buddhism-dict.net/ddb/> 1995年から公開。ゲストは guest で検索できる。
- 57) 中華電子佛典協會經文検索 : <http://cbeta.buddhist-canon.com/result/search.htm>
- 58) Tripitaka Koreana search engine : <http://www.sutra.re.kr/> 高麗大藏經研究所の知識ベース検索エンジン。
- 59) Korean Buddhism : Collected Works (Hanguk bulgyo jeonse) : <http://ebti.dongguk.ac.kr/> 東国大学校電子仏典・文化財コンテンツ研究所。
- 60) 花園大学国際禅学研究所データベース : <http://iriz.hanazono.ac.jp/> 禅籍データベース、Chinese Zen Masters、Ten Oxherding Pictures がある。禅籍データベースには禅籍解題を宗義、宗論、史伝、語録、頌古・公案、銘・箴・歌頌、禅文学、清規、叢書等に区分け。
- 61) Jens Braarvig *Thesaurus Litteraturae Buddhicae* : <https://www2.hf.uio.no/polyglotta/index.php?page=library&bid=2>。
- 62) 望月信亨等編『仏教大辞典』東京: 武揚堂, 1916の電子影像版 <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/817247>
- 63) Japanese Architecture and Art Users Network (JAANUS) : <http://www.aisf.or.jp/~jaanus/> Dr. Mary Neighbour Parent が namazu 検索システムで作成。約8,000件。
- 64) 日本美術シソーラスデータベース絵画編 (JART-P) : <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/jart/index.html> 2005年3月から公開。日本美術史関連の重要事項・画人(約2,000件)を年譜的に史料典拠付きで詳細記述。作品(約3,500件)、書誌(約1,300件)、所蔵館(約640機関)をリンクしたデータベース。日本に影響を与えた中国画人や画論、画法等約110件の年譜的解説が掲載。流派・画人、事項、様式等に分類し、典拠付き年譜をリンク。国宝・重要文化財を含む作品(3,627件)に画人、所蔵館、典拠書誌の全文テキストDB。
- 65) LODAC Museum : <http://lod.ac/> 2010年10月から試験公開。NIIの武田英明教授グループの Linked Open Data Academic、即ち、オープンコンテンツを JavaScript と XML 技術でリンクさせるプロジェクト

トの学術界版の美術分野。2010年10月。

- 66) 思文閣美術人名検索：<http://www.shibunkaku.co.jp/biography/>
- 67) 日本美術年表：[http://www.tobunken.go.jp/index\\_j.html](http://www.tobunken.go.jp/index_j.html)
- 68) 中国絵画辞典 Web 版（嶋田英誠跡見学園女子大学客員教授）：<http://www2.mmc.atomi.ac.jp/web01/Top%20Page%20to%20Students.html> 日本語よみ、旧漢字、Pinyin、Wade で検索。例えば牧谿を検索。「もくけい 牧谿 Muxi, Muqi」があり、簡解、典拠史料等リンク付き詳細解説、関連文献情報、参考文献情報、リンク付き作品情報がある。
- 69) 琴詩書画集（荒井雄三氏）：<http://www.geocities.jp/qsshc/index.html>、中国絵画事典ともなる。例えば「宋時代 牧谿と逸格水墨画」では逸品の意味と系譜、牧谿の生涯と作品研究、参考書、おすすめ展示会等が記載。「日本美術史ノート」、「詩・書」（中国書法史）等が有る。
- 70) 狩野永納著『本朝画史』東京：佚存書坊、1883の電子影像版 <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/851679>
- 71) 年号計算：<http://www.eastvalley.or.jp/nengo/index.html>
- 72) 兩千年中西曆轉換：<http://sinocal.sinica.edu.tw/>
- 73) 検索デスク（浅井勇夫氏）<http://www.searchdesk.com/history/h1999.htm> 「検索デスク」内「検索デスクのあゆみ」1995年11月1日
- 74) Google フリー検索：<http://www.google.co.jp/intl/ja/press/pressrel/pressrelease14.html> 2003年7月16日に日本でも公開（Google プレスセンター）。自己のページに Web 検索窓やサイト内検索窓を加えられるサービス。サイト内検索は階層内も指定可能となった。<http://www.google.co.jp/intl/ja/press/pressrel/pressrelease14.html>
- 75) 2005年2月18日、Jesse James Garrett 氏が Asynchronous JavaScript+XML (ajax) を提唱。Google Map で技術を知られ爆発的に普及。従来の JavaScript では、サーバにリクエスト送信後 PC 側でリロードし、結果を返したが、途中で Ajax を介することでリロードせずに結果を返せる。<http://www.adaptivepath.com/ideas/essays/archives/000385.php>
- 76) 2006年1月に John Resig 氏が発表したオープンソースの軽量な JavaScript ライブラリー。
- 77) 葛西秋雄氏『jQuery による Web サービス活用ワザ：実践サンプル集』東京：秀和システム、2010.6 p.351-360。jQuery は JSONP (JavaScript Object Notation with Padding=異なるドメインからデータを要求できる手法) により、クライアントサイドの JavaScript から Web サービスを利用可能とし、Web 制作の現場で普及しつつある。
- 78) Google AJAX Language API：<http://code.google.com/intl/ja-JP/apis/ajaxlanguage/documentation/JavaScriptのみを使ってウェブページ内のテキストブロックの言語を判別し、翻訳できる Google のサービス>
- 79) Web API(Application Programming Interface)とは、プログラムを他から借りられる仕組み。例えば Google の JavaScript ライブラリーを自分の Web ページに読み込ませられる。
- 80) 福田博同「より良き芸術系 Web サイトの構築について：Excel 流サイトメンテナンスを中心に」アート・ドキュメンテーション研究 (11) p.24-37, 2004, 全文：<http://ci.nii.ac.jp/naid/110003377955>
- 81) リンク集シート (列名：サイト ID、サイト名、アドレス、開設者、解説、分類、典拠 ID、作品 ID)  
作品シート (列名：作品 ID、作品タイトル、素材、制作年、国宝等、作家名、作家 ID、現所蔵者、所蔵者 ID、公式サイト、サイト ID、画像情報、典拠書誌、タイトル読み)  
作者シート (列名：作者 ID、作者名、名号、名号 ID、名号典拠、典拠 ID、作品 ID、よみ等)  
所蔵者シート (列名：所蔵者 ID、所蔵者、URI、〒、住所、電話、作品 ID、作品名、作家 ID、作家名、

分野、所蔵者読み等)

典拠書誌シート (列名: タイトル ID、タイトル、出版事項、親書誌 ID、親書誌、近代デジタルライブラリー ID、CiNiiID、WebcatID、作品 ID、作家 ID、ノート等)

加工用シート (一括収集したデータの加工用。例: リンク集からテキスト変換用にタグ付ける)

- 82) Common Gateway Interface。Web サーバ側で動くプログラムを起動する仕組み。カスタマイズできる CGI サービス実施のレンタルサーバーあり。アクセスカウンターや掲示板等が利用される。
- 83) namazu: <http://www.namazu.org/> 1997年高林哲氏が開発。研究機関や政府機関の使用例あり。キーワードとなる単語区切りには、「単語／の／区切り／が／明白」のように意味のある単語単位で分割する「形態素解析システム」や、2～3文字ずつをひとかたまりにして「単語」「語の」「の区」「区切」「切り」のように分割する「n-gram」があるが、形態素解析の「ChaSen」を使用している。
- 84) senna: <http://qwik.jp/senna/FrontPageJ.html> 2005年に「未来検索ブラジル(Brazil)」社が開発。DBMS やスクリプト言語処理系等に組み込み全文検索機能を強化。n-gram インデックスと単語インデックスの特徴を兼ね備えた転置インデックスを作成する。「MeCab-0.80」以降が推奨される。
- 85) Unicode 版 msearch: <http://www.marbacka.net/msearch/> 開発者 Katsushi Matsuda 氏の許諾により毛流麦花氏が Unicode 対応版を2004年3月公開。Perl 動作の CGI サーバで稼働。
- 86) 百度: <http://www.baidu.com/>中国最大シェアの検索エンジン。「百科」カテゴリーの「芸術」や「知道」カテゴリーの回答に仏教絵画関連記事の掲載あり。
- 87) 「国指定文化財等データベース」や、東京大学東洋文化研究所「中国絵画所在情報データベース」(<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/index2.html>) の仏画関連作品から抽出。| 阿弥陀 | 観音 | 地藏 | 釈迦 | 浄土 | 神像 | 祖師 | 達磨 | 天女 | 如来 | 涅槃 | 毘沙門天 | 不動 | 変相 | 菩薩 | 曼荼羅 | 明王 | 文殊 | 維摩 | 羅漢 | など。
- 88) 国立国会図書館サーチ (開発版): <http://iss.ndl.go.jp/> 2010年6月サービス開始。現在34のデジタルデータ(貴重書画像 DB、近代デジタルライブラリー、NDL 雑誌記事索引、レファレンス共同 DB、CiNii、JAIRO、公共・大学・専門図書館デジタルライブラリー、公文書・博物館デジタルアーカイブ、青空文庫等)と連携。API サービスあり。
- 89) PORTA: <http://porta.ndl.go.jp/> 2007年10月開始。国内学術機関、大学図書館、専門図書館、公文書館(CiNii、JAIRO 等173機関)のデジタルアーカイブ、書誌、参考情報を統合検索。
- 90) 人間文化研究機構「統合検索システム」: <http://www.nihu.jp/sougou/kyoyuka/system/index.html#tougou> 大学共同利用機関法人人間文化研究機構を構成する6機関のアーカイブ統合検索サービス。2008年から一般公開。
- 91) 想-IMAGINE Book Search: <http://imagine.bookmap.info/index.jsp> 「NPO 法人連想出版」運営。JavaScript Library を利用したデジタルブックの画像付き横断連想検索サービス。2006年7月から国立情報学研究所連想情報学研究所開発センターが公開。
- 92) e-國寶: [http://www.emuseum.jp/search?d\\_lang=ja](http://www.emuseum.jp/search?d_lang=ja) 2002年5月公開。2011年1月現在、絵画257件、書跡200件、彫刻63件、建築2件、金工35件、刀剣96件、陶磁25件、漆工37件、染色29件、考古69件、法隆寺献納宝物184件。高精細画像と日英仏中韓の5ヶ国語解説。
- 93) Weblio: <http://www.weblio.jp/> 各専門分野1サイトの ajax による一括全文検索。文化庁「国指定文化財等データベース」、徳島県立近代美術館等も参加。
- 94) 中国博物館在線: <http://www.sach.gov.cn/tabid/201/Default.aspx>
- 95) Gutenberg Project: [http://www.gutenberg.org/wiki/Main\\_Page](http://www.gutenberg.org/wiki/Main_Page) Michael Hart により1971年から設立。著作権切れ資料の全文テキスト化(可読テキスト)プロジェクト。現在、33,000件の電子ブックが PC

や iPad、Kindle 等からも読め、ダウンロード可能。この運動以降、全文テキスト化が加速。

- 96) American Memory: <http://memory.loc.gov/ammem/index.html> 1994年から米国議会図書館内に設置されたパブリックドメインのデジタルアメリカの記憶。
- 97) Internet Archives: <http://www.archive.org/> 1996年から非営利団体とし、研究者等へ恒久的にデジタルアーカイブを提供。Alexa Internet 等からデータ提供を受ける。
- 98) Europeana: <http://www.europeana.eu/portal/index.html> 2008年11月20日公開。欧州連合 (EU) 参加の27カ国、200万以上の書籍、地図、記録、写真、文書、絵画、映画等のデジタル版。2011年1月現在1,500機関参加。1,400万件以上。検索は、タイトル、作家、日時、件名。
- 99) 維基文庫: <http://zh.wikisource.org/zh/Wikisource> Wikisource の中国語版。四庫全書を全文入力中(子部藝術類78書中、『古畫品録』や『歴代名畫記』等40書済み)。遠大な計画。
- 100) 佛學大辭典: <http://zh.wikisource.org/zh/佛學大辭典>
- 101) 四庫全書: <http://zh.wikisource.org/zh/四庫全書> 清・乾隆帝の勅命による漢籍叢書。経・史・子・集の4部に44類、3503種、36000冊、230万ページ、10億字と数えられている。
- 102) 『畫禪室隨筆』: <http://zh.wikisource.org/zh/畫禪室隨筆> 4巻(存3巻) / (明) 董其昌 [撰]; (明) 楊補編; (明) 陳王賓校。[出版地不明]: [出版者不明], 康熙59 [1720] 序の全文テキスト化。董其昌の思想の核には禪があり、南北二宗論を展開し本書で南画優勢を築く。八幡関太郎訳注本(春陽堂, 1938) は著作権が切れ Google ブックス検索で全文表示される。
- 103) 大正新脩大藏經テキストデータベース: <http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/index.html> 東京大学サーバより1998年3月から発信の全文テキストデータベース。『大正新脩大藏經』(大蔵出版, 1933-1939) の第1-85巻を同出版社の信任で作成。「阿含部」から「古逸部・疑似部」までの23分類、例えば、「法華部・華嚴部」を展開すると「妙法蓮華經/鳩摩羅什譯」から「大方廣佛華嚴經/佛跋陀羅譯」までの17経が選択できる。
- 104) 東京大学史料編纂所データベース: <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html> 「大日本史料総合データベース」、「維新史料綱要データベース中の復古記データ」、「編年史料綱文」データベース、「日本史料書誌統合データベース」、「所蔵史料目録データベース」、「史料編纂所所蔵和漢古書書誌画像データベース」、「日本古文書ユニオンカタログ」、「古文書聖教類データベース・古文書目録データベース・日本古文書ユニオンカタログ」、「古文書フルテキストデータベース」、「日本中世古文書フルテキストデータベース」、「古記録フルテキストデータベース」等。全文の必須工具。
- 105) アジア古籍電子図書館: <http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.html> 電子影像に検索システムを加えた以下のデータベース群。漢籍善本全文影像資料庫 <http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.html> 2010年3月現在特別貴重書から選定した4,630点。内容分類(四部分類)、書名、索書号からの旧字体での検索。藝術類の繪畫はなく、内容分類で「釋家」を検索すると、「大般若波羅蜜多經殘一卷 唐鈔本」ほか、27点の高精細画像が表示される。  
サンスクリット語写本データベース: <http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.jsp> 東京大学総合図書館所蔵サンスクリット写本570点が基礎(高楠順次郎(1866-1945)がネパールで収集した180点、河口慧海(1866-1945)請来の390点)。検索は、半角英小文字のKH方式と付号無方式で検索窓に入力する。例えば buddha と KH 方式で入力すると、40件表示され、写本情報(書誌)と画像表示を選択する。画像は高精細画像。
- 106) 蓮實重康博士旧藏美術史資料 <http://www.um.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/umdb/hasumi.cgi> 東京大学総合研究博物館「ウェブミュージアム: 博物館データベース」内蓮實博士(1904-1979)寄贈の美術史画像資料約1,500点のデータベース

- 107) 研究資料データベース：[http://www.tobunken.go.jp/index\\_j.html](http://www.tobunken.go.jp/index_j.html) 前述の「日本美術年表（15世紀-16世紀）」に加え、「美術展覧会出品目録」、「彩色関係資料データベース」がある。
- 108) 河口慧海コレクション：[http://webdb2.museum.tohoku.ac.jp/data\\_base/tounitibi/ekai/index.html](http://webdb2.museum.tohoku.ac.jp/data_base/tounitibi/ekai/index.html) インド、ネパール、チベットで河口師が収集の仏教美術資料818点、民俗資料413点、標本255点、合計1486点。
- 109) 東方学デジタル図書館：<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html> 『十三經注疏』、『周易正義十四卷』、『説文解字』、『漢書零片』、『永樂大典殘二卷』、『大般若波羅蜜多經殘一卷』、『高僧傳十四卷』、『大唐西域求法高僧傳二卷』、『大乘起信論一卷』等の検索と全文画像DB。
- 110) 日文研所蔵 稀本・資料データベース：<http://www.nichibun.ac.jp/graphicversion/dbase/database.html> 全文高精細画像にした検索サービス。「貴重書」、「在外日本美術データベース」、「平安人物志データベース」、「平安人物志短冊帖データベース」、「都年中行事画帖」、「所蔵地図データベース」、「WebGIS日本全図」、「図録米欧回覧実記」、「近世崎人伝（正・続）」、「平安京都名所図会」、「絵巻物データベース」など。
- 111) 国文学研究資料館「電子資料館」：<http://www.nijl.ac.jp/> 書誌・目録類、本文、画像資料「日本古典文学本文データベース」岩波書店旧版の全文テキスト化
- 112) デジタルシルクロード：<http://dsr.nii.ac.jp/> 情報学と人文学の融合に基づく文化遺産デジタルアーカイブ構築研究プロジェクト。「古都北京デジタルマップ」、「スタイン地名データベース」、「ペリオ敦煌図録図版解説」、「遷画」、「シルクロード用語集」など2011年1月現在17プロジェクト。「遷画」はFlashベースのゲーム感覚のシルクロード画像収集を利用できる。
- 113) 禅文化研究所「研究・資料」：<http://www.zenbunka.or.jp/index.htm>
- 114) 古代史癡祭：列島編：<http://www004.upp.so-net.ne.jp/dassai/> 中国、日本古代史で管理人が重要視した史書（本文に加え『天寿國繡帳 銘文』、『元興寺伽藍縁起并流記資財帳』等）に一部読み下しを付与して公開。日本史関連に仏教美術情報が記載。
- 115) 学術研究データベース・リポジトリ：[http://dbr.nii.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G9200001CROSS](http://dbr.nii.ac.jp/infolib/meta_pub/G9200001CROSS) 博士論文、文化財科学、東南アジア関係、古文書などの論文全文や、論文や図書の書誌検索。
- 116) 漢籍電子文獻：<http://hanji.sinica.edu.tw/index.html> 1984年より。中国傳統人文研究のため所蔵する漢籍を全文データベース化。外国人は免费版のみ利用可。『二十五史』、『十三經』、『小説戲曲暨其他』（『入唐求法巡禮行記』、『大唐三藏取經詩話』、『三國演義』を含む）、『漢籍全文資料庫』、『古漢語語料庫-摘要』（『論語』、『孟子』、『老子』等がある）、『佛經三論』、『清代經世文編』、『正統道藏』、『詞話集成』、『人文資料庫師生版1.1』、『人名權威參見』等がある。『人文資料庫師生版1.1』に『太平經合校』や『藝文類聚』など。検索方法には、書名、内文、注釈、異体字、同義語をチェックキーワードで探す方法、詳細検索、四部分類で絞り込む方法もある。
- 117) 国指定文化財等データベース：<http://www.bunka.go.jp/bsys/文化庁運営>。国指定・登録・選定文化財等の全情報10,363件の検索システム。①条件指定、②地図、③文化財分類別の検索方法。①条件指定検索：「名称」の一部を入力、「文化財分類」と「都道府県」選択。②「地図」検索：googleの地図画面と検索窓③文化財分類別検索：建造物、美術品、登録美術品、民俗文化財等の15分野。例えば、国宝・重要文化財（美術品）を選ぶと、分類別、都道府県、全件別ブラウズと、詳細検索がある。分類別では「絵画」、「彫刻」、「工芸品」、「書籍・典拠」、「古文書」、「考古資料」、「歴史資料」の7分類。2011年1月現在「絵画」は国宝156件、重要文化財1,791件。詳細検索は、名称、ふりがな、作者、時代等の27項目のAnd検索が可。画像はサムネールと最大300\*500dpi程度。詳細解説あり。印刷とcsv出力が可能。
- 118) 文化遺産オンライン：<http://bunka.nii.ac.jp/Index.do> 2008年3月開始。文化庁運営。「ギャラリー」、

「文化遺産DB」（「国指定文化財データベース」の国宝（180件）・重要文化財（2,082件）等も含む）、「遊歩館」、「全国の美術館・博物館情報」、「地方の文化財」等に区分。連想検索も可能「ギャラリー」検索は「時代」、「地域」、「分野」、「文化財体系」、「条件を入れて探す」。「分野」は「建造物」、「絵画」、「版画」、「彫刻」、「工芸」、「その他の美術」、「考古」、「歴史」、「伝統芸能」、「史跡」、「名勝」、「天然記念物」、「伝統的建造物群」、「文化財保存技術」、「民俗」、「文化的景観」、「工芸技術」。2011年1月現在、12,494件（うち、国宝・重要文化財（絵画）561件）。

- 119) 東博「情報アーカイブ」：<http://webarchives.tnm.jp/archives/> 2008年3月サービス開始。仏画関連は「情報アーカイブ」内の「古写真データベース」、「画像情報検索」、「古文書データベース」等。研究成果の論文等は抄録。「データベース」には、古地図Web、古写真Web、博物館譜Web、古文書、印譜の各画像データベースあり。「古写真Webデータベース」は20,000点以上のモノクロ写真と作品名、作者、撮影者等（キーワード「菩薩」検索で495件、「阿弥陀」358件、「明王」147件等）。「古文書データベース」には読下し文あり重宝する。「画像情報」はカラー図版。
- 120) 東博「名品ギャラリー」：<http://www.tnm.go.jp/jp/gallery/index.html> 2008年3月サービス開始。「考古」、「彫刻」、「絵画」、「書跡」、「工芸」、「その他」に区分。「絵画」は2011年1月現在86点の高精細画像と解説がある。「仏画」項目
- 121) 京博「収藏品データベース」：<http://www.kyohaku.go.jp/jp/syuzou/index.html> 2011年1月現在5,844件（うち日本美術3,880件、朝鮮美術270件、中国美術1,360件）、詳細解説の「名品紹介」等「収藏品データベース」。「名品紹介」は高精細画像。解説文全文キスト。
- 122) 京博「名品紹介」：[http://www.kyohaku.go.jp/jp/index\\_top.html](http://www.kyohaku.go.jp/jp/index_top.html) 2011年1月現在5,844件（うち日本美術3,880件、朝鮮美術270件、中国美術1,360件等）、詳細解説の「名品紹介」等。
- 123) 奈良博「アーカイブズ」：<http://www.narahaku.go.jp/> 「収藏品」内「名品ギャラリー」（1,400件）と「収藏品データベース」（彫刻76件、絵画124件、書跡114件、工芸215件、考古767件）や、「アーカイブズ」内の「写真データベース」や「研究紀要」全文テキストあり。
- 124) 国立歴史民俗博物館「所属資料データベース」：<http://www.rekihaku.ac.jp/> 仏教美術関連では、館蔵資料223,527件から検索。検索は3項目（資料名、コレクション名、使用地（館蔵錦絵では画題、画工名、主題分類）。プルダウンで資料名カナなどの14項目（館蔵錦絵では30項目）選択可能）と、西暦年、フリーキーワードの検索枠があり、And検索。検索結果の絞り込み検索も可能。超高精細画像。「館蔵資料（画像付）」、「館蔵中世古文書」、「館蔵近世・近代古文書」等
- 125) 東京藝術大学大学美術館「所属資料データベース」：<http://www.geidai.ac.jp/museum/> 収藏品DBには2011年1月現在、28,000件の作品あり。絞り込み検索「文化財」、「東洋画真蹟」、「東洋画模本」、「西洋画」、「版画」、「書跡」、「彫刻」、「金工」、「漆工」、「陶磁器」、「染織」、「建築」、「考古」、「学生制作品」、「雑美術工芸品」、「雑標本」、「写真」、「写真種板」、「石膏標本」、「動物標本」、「音楽資料」、「学生制作品（音楽）」、「版木」、「複製」、「拓本」、「和漢書」、「学生制作品（映像）」、「その他」。カラー画像にタイトル、基礎、文化財、目録、台帳の各情報と参考文献
- 126) 臺灣大學文學院佛學數位圖書館暨博物館：<http://buddhism.lib.ntu.edu.tw/BDLM/index.htm>。仏教学の「書目+全文検索引擎」で検索。
- 127) MOA美術館：<http://www.moaart.or.jp/> 日本東洋古美術を中心に国宝、重要文化財等を所蔵。言語：日・中・韓・英。「所蔵品」に「仏画」がある。小サイズの高精彩画像と解説あり。
- 128) 出光美術館：<http://www.idemitsu.co.jp/museum/index.html> 「仙厓」コレクションから発展。日本・東洋古美術専門美術館。国宝・重要文化財等多数所蔵。小サイズ高精細画像と詳細解説
- 129) 根津美術館：<http://www.nezu-muse.or.jp/> 茶道具、仏教美術等の日本・東洋古美術専門美術館。国

宝・重要文化財等多数所蔵。小サイズ高精細画像と詳細解説あり。

- 130) 故宮博物院 (北京) : <http://www.dpm.org.cn/index1024768.html> 北京の故宮博物院公式サイト。日本語版は現在無し。中・英版。「本院总说」(博物院紹介)、「开放与导览」(展覧会等案内)、「紫禁城时空」(紫禁城今昔)、「数字资料馆」(資料館)、「学术天地」(学術全文情報)、「文化专题」がある。「数字資料館」に全文テキスト。「建築」、「藏品」、「古籍」、「出版」、「明清宫廷」、「文物保護」、「在錢閱覽」に分かれる。「藏品」では、「陶瓷」、「絵画」、「法書」、「銘刻」等25区分。例えば「絵画」では「時代」、「分類」、「作者」、「文物名称」で検索、画像と詳細解説あり。
- 131) 故宮博物院旧サイト (北京) : [http://www.dpm.org.cn/www\\_oldweb/](http://www.dpm.org.cn/www_oldweb/) 北京の故宮博物院のリニューアル前の公式サイト。日本語版や新サイトへの未移行画像と詳細解説が利用可能。例えば Google で「故宮博物院 幽風圖卷」と検索すると現サイトの「幽風圖卷」が表示される。
- 132) 國立故宮博物院 (台北) : <http://www.npm.edu.tw/index.html> 「典藏資源」内の「典藏精選」、「主題網站」に詳細な全文データあり。中・日・韓・英・独・仏・西・露・アラビア版で中文が最も詳細。「參觀故宮」、「典藏資源」、「學習資源」と利用者別あり。「研究人員」では、「典藏精選」、「図書文献館」、「故宮期刊」、「典藏資料庫」、「主題網站」等があり、「典藏精選」の著名作家の作品・画像解説や、「主題網站」の「大観：北宋書画」の詳細解説あり。日本語サイト「セレクション」(著名作家の作品・画像解説)、「テーマサイト」などあり。2011年1月現在、「追索浙派」は中文、英語、日本語サイト。浙派の詳細解説、個々の作品解説、Flash による高精細画像あり。「これまでの展覧」では2004年3月から100以上の展覧の解説、個別展示の解説等、中国絵画教育上重要。仏画関連では2005年1月、2006年1月の「佛光遍照」。「書畫典藏資料検索」、「器物典藏資料検索」
- 133) 韓国中央博物館 : <http://www.museum.go.kr/> 言語：韓・日・中・英。メニューは [Login | 会員登録 | 子供博物館 | 視覚障害者 | eMuseum]。Login 画面で統合検索 (サイト内) あり。トップページは Flash、文字は画像故、別途視覚障害者用あり。日本語版メニュー：[利用 | 展示 | 所蔵品情報 | 教育 | サービス | 博物館紹介]。所蔵品情報：2011年1月現在1,867件、キーワード検索、結果表示は名称、番号、作家、規模、素材、解説。
- 134) 韓国国立扶余博物館 : <http://buyeo.museum.go.kr/home.do> 言語：韓・日・中・英。メニューは「博物館紹介 | 常設展示 | 学術情報 | Contact Us」。博物館紹介では (第1-3展示室の各10点の画像と名称。所蔵品検索は現在 Not Found)。
- 135) Freer Garary of Art : <http://72.5.117.145/collections/> ワシントンにあるスミソニアン博物館群の同ギャラリーは、隣接するアーサー・M・サックラー・ギャラリーと同様、日本を含む中国やインドを中心としたアジアの古美術品を展示。検索窓で「Buddhist art」、「mandala」等で検索。
- 136) Museum of Fine Arts Boston : <http://72.5.117.145/> 1876年開館の米国最大級の美術館で2011年45万点以上を収蔵。岡倉天心が1905年東洋部長在職。「アジア・オセアニア・アフリカ」美術部門には仏画、絵巻、刀剣などの優品を所蔵。<http://www.mfa.org/>では Not Found が多い。
- 137) 高野山霊宝館 : <http://www.reihokan.or.jp/> 2万8千点 (国宝21件、重要文化財143件含む) の収蔵。「収蔵品紹介」に「主な収蔵品」、「仏に関する基礎知識」がある。「主な収蔵品」は2011年1月現在、仏画5点、仏像7点、書跡6点、仏教工芸3点、考古4点。カラー画像と簡解。「仏に関する基礎知識」は仏教美術辞典。
- 138) 天台宗総本山三井寺 : <http://www.shiga-miidera.or.jp/treasure/index.htm> 国宝64点、重要文化財720点を含む。同寺の名宝を「秘仏」、「建造物」、「仏像」、「絵画」、「工芸」、「文書典籍」、「庭園」の7区分で紹介。「絵画」では、2011年1月現在、「新羅明神像」、「不動明王二童子像」など国宝・重文15点の画像と解説。関連リンクに「三井寺園城寺佛教尊像修復院」がある。



- 139) 智恩院の文化財：<http://www.chion-in.or.jp/bunkazai/hobutsu/index.html> 4点紹介。
- 140) 西大寺絵画リスト：<http://www.naranet.co.jp/saidaiji/> 3点紹介。
- 141) 手拉手→教育手拉手论坛→学历教育大区→教育讨论区→国画国学：<http://www.jysls.com/forum-380-1.html> China Net, 福建省ネットワークで作成。画法、国画流派、文人画等の簡解あり。
- 142) 中華書画網：<http://www.zhshw.com/> 「国内書画藝術動態」、「国際藝術新聞」、「歴代名家」、「現代名家」、「書画知識」、「書画鑑定技巧」、「書画收藏知識」、「文房四宝」等網羅的に掲載。歴代名家：秦漢から清代の144書画人掲載。馬遠や夏圭等南宋四大家の詳細解説と画像。
- 143) 超星数字圖書館：<http://www.ssreader.com/>中国最大級の電子影像全文図書群（2011年1月現在33万冊）。SSReader インストールで該当図書の目次画像から正文頁指定の方法で閲覧。
- 144) eMuseum：<http://www.emuseum.go.kr/eng/index.do> Korean National Heritage Online のリンクサイト
- 145) <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/tsuki/index.htm> 総務省統計局サイトの人口推計月報から計算。人口1億2583万3千人中、老眼鏡が必要な50才以上の人口5,477万5千人は43%。
- 146) WAI：<http://www.w3.org/TR/1999/WAI-WEBCONTENT-19990505/>
- 147) JIS X8341-3 (2004)：<http://www.jsa.or.jp/stdz/instac/commitee-acc/web-tech-repo/technical-report.html#PAGEMENU> 「高齢者・障害者等配慮設計指針-情報通信における機器、ソフトウェア及びコンテツ-第3部ウェブコンテツ」
- 148) 画像・音声・映像には代替手段を確保 | 色だけに左右されない：色覚対応、明度対比 | 構造を正しくタグ付け、画面デザインはスタイルシートを利用 | 音声ブラウザで利用できるように言語使い | 表は適切に「読み上げられるよう」する | 新技術に対応できる | 装置に依存しない、等々。
- 149) W3C Validation Service：<http://validator.w3.org/> W3C 標準の HTML, XHTML チェック
- 150) Another HTML-lint：<http://htmlint.itc.keio.ac.jp/htmlint/htmlint.html>：K16氏作 W3C 準拠の文法と不具合箇所を表示、その理由の解説が HTML 作成者に有益。
- 151) W3C の CSS をチェックするサイト <http://jigsaw.w3.org/css-validator/>
- 152) 伊藤啓「色覚の多様性に配慮した案内・サイン・図表等用のカラーユニバーサルデザイン推奨配色セット」：<http://jfly.iam.u-tokyo.ac.jp/colorset/> <http://www.cudo.jp/CUDO2006aki.pdf>
- 153) imageJ：<http://rsb.info.nih.gov/ij/>  
Vischeck J：[http://www.color.or.jp/tool\\_vischeck.html](http://www.color.or.jp/tool_vischeck.html)
- 154) aDesigner：[http://www.trl.ibm.com/projects/acc\\_tech/adesigner.htm](http://www.trl.ibm.com/projects/acc_tech/adesigner.htm) IBM 東京基礎研究所開発：全盲ユーザー用ユーザビリティ評価、ロービジョンユーザー用評価技術によるチェック。